

自動車販売の危機とその未来

1170418 清原稔広

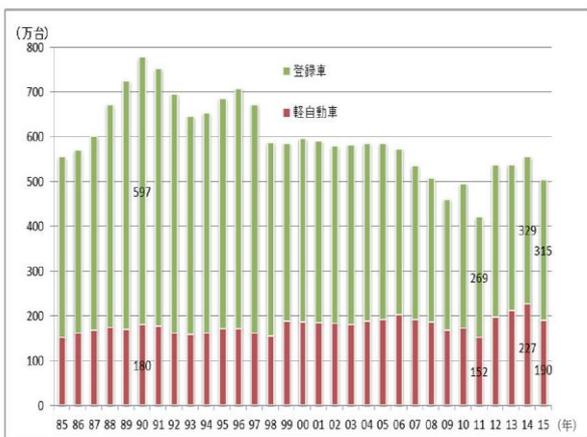
高知工科大学 マネジメント学部

1. 目的・意義

現在、自動車販売業界は勢いを欠いている。その中でも軽自動車専門の販売店が急増加している。その戦略は正しくこれから軽自動車は売れ続けるのか。またその理由について研究する。本論文では消費者に焦点をあて購入の動機を明らかにする。

2. 背景

近年、自動車販売に影響を与える要因が多くみられ販売台数が低迷してきている。というのも自動車販売の歴史を見ると自動車販売（普通車も含めて）のピークは1990年である。そこから年々、時代は若者の「車離れ」、少子化、高齢化などの影響により販売台数が急降下傾向である。しかし、そういった時代の中でも軽自動車は年々販売台数を増加させ2014年には過去最高の販売台数を記録した。この時、自動車販売（普通車を含めて）の約4割を軽自動車が占めていたのである。だが、2014年4月の消費税率の引き上げや2015年4月の軽自動車増税の影響もありその勢いを落とした。（図1）



(出所) 自工会及び一般社団法人全国軽自動車協会ホームページより作成

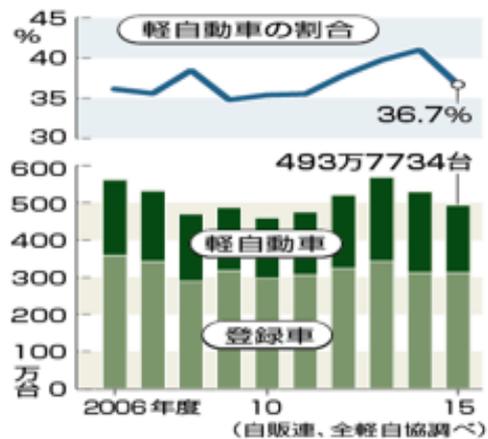
(図1) 国内自動車（新車）販売台数の推移

軽は2.4%減。全軽自協は「2016年3月までは厳しい状況が続く」とみている。軽は2カ月ぶりに増加したが、軽以外は6カ月連続で減少した。また、14年4月の消費税増税に伴う駆け込みの反動による需要減も尾を引いた。

一方、軽以外の普通車などは2014年以降0.8%増の3カ月連続で増加した。新型車の好調が主因で、従来モデルの販売は振るわず、小幅な伸びにとどまった。新車販売について自販連は「回復したとは言えない状況だ」と分析した。燃費不正問題を起こした三菱自動車の新車販売台数は1.8%減の8カ月連続で減った。



(図2) 新車販売台数の増減率



(図3) 新車販売台数の推移

2015年度の車種別新車販売ランキングでは燃費の良いHVや軽自動車が上位を占めた。国内自動車市場の落ち込みにより、トップ10のうち販売台数が前年度を上回ったのは昨年12月に新型モデルが出た「プリウス」など2車種のみ。昨年4月以降に新車登録された車を対象に軽自動車税が増税となったことから、軽自動車の販売台数はいずれも前年度水準を割り込んだ。(表1)

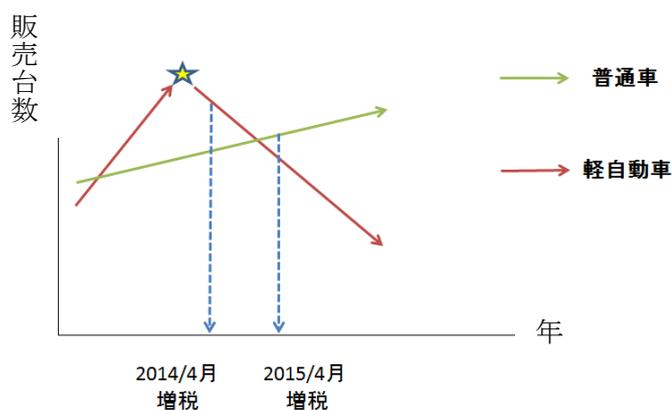
2015年度の車名別新車販売ランキング

順位	車名(メーカー)	販売台数
①	アクア(トヨタ)	19万2399台
②	※N-BOX(ホンダ)	17万2614台
③	プリウス(トヨタ)	15万5950台
④	※タント(ダイハツ)	15万5768台
⑤	※デイズ(日産)	14万0413台
⑥	フィット(ホンダ)	11万2007台
⑦	カロラ(トヨタ)	10万8392台
⑧	※アルト(スズキ)	10万6852台
⑨	※ワゴンR(スズキ)	10万0461台
⑩	※ムーヴ(ダイハツ)	9万9466台

(注)※は軽自動車、自販連・全軽自協調べ

(表1) 2015年度の車種別新車販売ランキング

特に本論文で注目する増税前後の自動車販売傾向を(図4)で表現できる。



(図4) 2012年からの自動車販売傾向を簡潔化

自動車業界は1990年から低迷が続いているが、2014年と2015年の増税から軽自動車の売れ行きが悪化し、普通車(HV車)が上昇している。だが近年、各地域で軽自動車専門店が急増

加している。その原因は何か。

3. 先行研究

高橋(2016)は、自動車販売に焦点を当て、販売に対する決定要素についてアンケート調査を行っている。

高橋(2016)は男女25名ずつの対象者に自動車を購入する際の決定要素{(例)価格、燃費、デザインなど}14項目を5段階評価でアンケート調査した。また、もし今自動車を購入するなら普通自動車と軽自動車どちらを購入するかのアンケートとその理由についての調査も行っていた。結果として燃費がよく、低価格の自動車を消費者の多くが購入しようとしていることがわかった。また、全体の調査結果として対象者は自動車を選択する際、特に「価格」「燃費」「デザイン」を重視することが明らかになっている。そして、今後どのような自動車を購入するののかという問いには、男性の9割が普通車を選び、女性は過半数以上が軽自動車を選択した。理由として男性の普通車を選択した方は乗り心地や憧れ、性能・デザイン、軽自動車に乗っていたことなどが挙げられている。軽自動車を選択した方は、価格・維持費が安いことなどが挙げられている。女性の普通車を選択した方は、デザイン・乗り心地・車内容量や軽自動車に乗っているからという理由があった。対して、軽自動車を選択した方は、運転がしやすい・デザイン・費用・燃費の面で選択していた。

4. 仮説

本論文では次の仮説を立てる：初めて自動車を購入する人はほとんどの場合、まず軽自動車を購入する。

なぜなら、ほとんどの場合は自動車を購入する時期として、18歳(免許取得制限)を越えた学生や就職してからの社会人に絞られると仮定。そうなった場合、学生のうちに多くの貯金をしてきた人、家族や親せきに車を買って頂いたり譲ってもらわない人以外は、自動車の維持費や購入費から多くの出費により経済的に生活の不安定さを考えて軽自動車を購入するのではないかと。

5. 研究方法

現場での聞き取り調査

実際の自動車販売店に来店したまさに今から自動車を購入しようとする意志のある消費者を対象として調査を行う。

先行研究との違いは、実際に購入に来店した方を対象としていること。さらに、アンケート調査では聞き出せないお客様の意見が深い部分まで調査することができた。

6. 実施・調査結果

男女年齢問わず24名への聞き込み調査により得た情報が以下である。

まず、対象を男性と女性に分けた場合。

男性の方は、その過半数が普通車に憧れていることがわかった。対して女性の意見としては、自動車の性能などがほとんどわからず、お手ごろ感や可愛さ、安心感を重視するということがわかった。比較すると、男性はその商品の見栄えや性能に重点を置きやすく女性は価格・安全性・デザインに重点を置きやすい傾向がある。

また、年齢別では20～30代、40～50代、60代～の3段階に分けてみた。

結果、20～30代の方たちは働き出したばかりで生活に余裕がないから、貯金していい車を購入したいから、車にお金をできるだけかけたくないから等の理由から軽自動車を選ぶ傾向にあった。次に40～50代では、主に男性の多くが普通車を持っていて、その他の方は軽自動車を利用してこれから軽自動車を使用する人が多いことが分かった。理由としては、ちょうどこの年代の方たちに18歳以上の子供がおり新しく自動車を購入することが背景にあるからである。最後に60歳以降の方たちは主に軽自動車を利用している方たちが多い。理由としては、運転技術の低下や愛着、貯金のためなどのことが挙げられました。また、今後は現在利用している自動車が故障しても、軽自動車を購入しようとしている方が約9割いました。

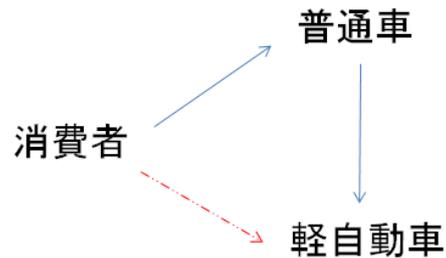
この結果は、先行研究の結果内容とほぼ一緒になり頑強性が増したと思われる。

そして今回の調査結果から新たに分かったことは、自動車を初めて購入する際はほとんどの人が軽自動車を選択する傾向があるということが調査した中で分かったこと。

さらに、女性の場合は普通車を購入する意思がほとんどなかった。また、年配の方たちは普通車を利用していた人でも後々は軽自動車に替えようとする意志のある人がほとんどであると思われる。

さらに、この調査から見いだせた新たな発見があった。そ

れは一般的に自動車の購入時の選択肢として普通自動車と軽自動車が存在する。その2択の中でも初めての自動車購入時に軽自動車を選ぶのは、普通車を購入するには経済的不安要素などの理由があり仕方なく軽自動車を選択していると思われる。しかし、調査を行っていく上で軽自動車を購入されるお客様の意見を聞いていくと自動車＝軽自動車とされている方が多いようだ。特に自動車の性能や仕組みに興味がない人がそういった傾向にあることが判明した。(図5)



(図5) 新型モデル

7. 結論

本論文では研究結果から軽自動車は現代の日本経済状況では、まだ数年は売れるであろう。業界の中でも一つの分野に絞った経営戦略は焦点を正しく見つければ経営はうまくいくことが調査の結果から考察できる。軽自動車販売の将来の見通しは明るいだらう。だが、いつかは技術・性能・時代の流れによって消費者の求める商品が替わってくるだろう。そこで、私はこの研究を今後も持続させようと思う。そして販売会社たるもの時代の流れにうまく乗らなければいけない。

8. 今後の課題

今後起こりうる問題として挙げられるのが、消費者の求める商品の変化と時代の流れである。現在の自動車業界の最先端でいえば、水素・電気自動車である。その中でも近年、自動車業界が力を入れ始めているのは電気自動車である。

最近では電気自動車が3年間充電無料という企画をだした。未だ普及しきれていない電気自動車だから自動車本体の価格は普通自動車の約2.5倍はする。だが、出張で県外へよく行く人は3年間程乗ればむしろ軽自動車よりもプラスになるのではないかと。これが今後の課題になるだろう。

9. 参考文献

- ・柿沼重志・東田慎平（2016）「自動車産業の現状と今後の課題」 P139 「経済産業委員調査室」より
http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2016pdf/20160701135.pdf （図1）
- ・「【今の景気っていいの？ 悪いの？】よくわからない日本経済の現状」 <http://ima-colle.jp/mypages/1127/13960>
- ・「【図解・経済】時事ドットコム」 HP より
＜国内新車販売台数の増減率＞
「新車販売台数の増減率」（2017/2/1） 図2
「新車販売台数の推移」（2016/4/1） 図3
＜国内車名別新車販売ランキング＞
「2015年の車名別新車販売ランキング」（表1）
http://www.jiji.com/jc/graphics?p=ve_eco_car-oldsales-japan
- ・高橋義人（2016）「自動車市場の現状とこれから」
高知工科大学 2016年3月卒業論文

